

琉球大学学術リポジトリ

道路周辺で特異的な行動を示したヤンバルクイナについて

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農学部 公開日: 2015-09-01 キーワード (Ja): 希少種, やんばる, ヤンバルクイナ キーワード (En): endangered species, yambaru, Okinawa rail 作成者: 田崎, 駿平, 比嘉, 瑞希, 山本, 以智人, 平山, 琢二, Tasaki, Shumpei, Higa, Mizuki, Yamamoto, Ichihito, Hirayama, Takuji メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/31715

道路周辺で特異的な行動を示したヤンバルクイナについて

田崎駿平¹・比嘉瑞希²・山本以智人²・平山琢二^{1*}

¹琉球大学農学部

²やんばる野生生物保護センター

One Okinawa Rail which Indicated Peculiar Behavior in Around the Road

Shumpei TASAKI¹, Mizuki HIGA², Ichihito YAMAMOTO² and Takuji HIRAYAMA^{1*}

¹*Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus*

²*Yambaru Wildlife Conservation Center*

Abstract: In this examination, we studied on the behavior of one Okinawa rail which indicated peculiar behavior in around the road for periodically. From May to September, Food search and preening behavior was observed at vacant lot around the road (road: asphalt). In September, we observed the nesting behavior on the tree (Okinawa pine tree). Its suggested that this Okinawa rail is living for range of livelihood at around the road.

キーワード：希少種，やんばる，ヤンバルクイナ

Keyword: endangered species, yambaru, Okinawa rail

*Corresponding author (E-mail: donald@agr.u-ryukyu.ac.jp)

諸 言

ヤンバルクイナ (学名: *Rallus okinawae*) はノグチゲラとともに沖縄本島北部の山地、「やんばるの森」にしか生息していない貴重な留鳥である¹⁾。新種としての発見報告²⁾は1981年と比較的最近だが、地元では昔から「ヤマドゥイ」または「アガチャー」と呼ばれ知られていた。その後、1982年に国の天然記念物として指定された^{3, 4)}。体は約30cm, オスとメスの体の模様・色彩はほぼ同じで、顔と喉は黒色、眼の後ろにのびる白帯、頭上から背中にかけての暗いオリーブ褐色、胸から腹にかけての黒色と白色の横縞模様が特徴である⁵⁾。また、くちばしは太く、あざやかな赤色、先がやや白味がかっており、脚は太長く、あざやかな赤色である⁵⁾。ヤンバルクイナは沖縄島北部の森林内、特に常緑広葉樹林の林床、周辺の草地で生活し、夜間は樹上をねぐらにする⁵⁾。飛ぶことはなく、林床の昆虫類、甲殻類、両生類などを摂餌する。繁殖期は5~7月で、地上に営巣し、1回の産卵数は4~5卵である⁵⁾。

一般的に鳥類は繁殖場所や越冬場所に執着性を示すものの、飛翔による移動性も高く、渡りをする種も多いので年間を通じた移動範囲は大きいとされている⁶⁾。ヤンバルクイナなどの無飛翔の鳥類は、行動圏が狭いだけでなく、行動圏への執着性も高いことが特徴と言われている⁷⁾。しかし、ヤンバルクイナの移動分散は、他の無飛翔の鳥に比べ高いことが報告されている⁸⁾。

また、ヤンバルクイナの行動圏と植生環境に関して、スダジイ自然林に行動圏がもっとも多く観察され、リュウキュウマツ林には少ない傾向にあることが報告されている⁹⁾。このように移動分散能力は高いものの、行動圏への執着性が高いことがヤンバルクイナの行動の一つの特徴であろう^{10, 11)}。

今回、道路周辺の定点観測地点で見られた個体の行動を観察したので、その行動の特徴について報告する。

材料および方法

調査は、沖縄島北部におけるヤンバルクイナが生息する地域で、5月から12月まで月1回、定点にて24時間連続で目視にて出現したヤンバルクイナの行動を観察した。夜間に関しては、赤外線カメラを用いてモニターを通して観察を行った。日中に出現した場合には、双眼鏡にて詳しい行動を観察した。なお、観察はエンジンを停止した車両内から目視にて観察できる範囲として行った(図1)。本調査では、複

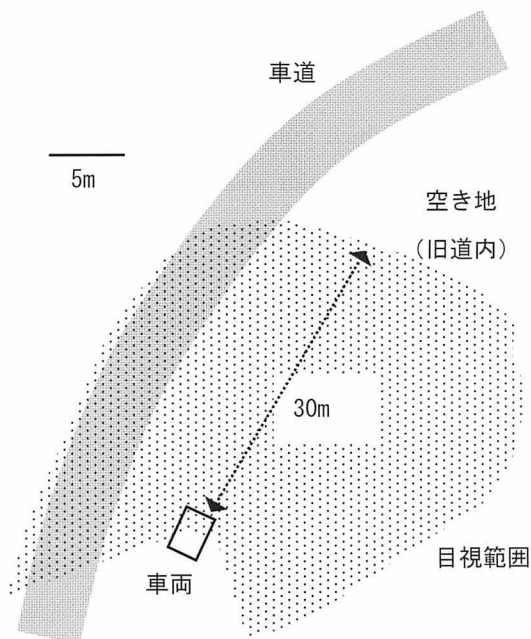


図1. 観察場所の略図

数の個体の出現が確認されたが、その内の1個体が道路周辺に長時間、滞在し羽繕いや徘徊など、特異的な行動を示した。本報告では、特異的な行動を示した1個体の行動について調査を実施した。

結果および考察

写真1に路上周辺で特異的な行動を示したヤンバルクイナの特徴を示した。眼の後ろに伸びる白帯は左右対称ではなく、特徴的な白帯状であった。また、眼色や嘴色から、成鳥であると判別できた。しかし、このような形態的特徴のみから雌雄を判別するのは困難であった。

本個体は、調査を開始した5月から単独個体として観察さ

れた。6時から7時半ころ、17時から19時ころまで断続的に出現し、路上横の空き地(アスファルト面)にて、餌の探索(探餌行動)、毛繕い、移動などを連続的に行い、滞在時間は約15分から20分におよんだ。その間、道路から約2m程度の距離で、車両の往来があった際に、センダングサ主体の草むらに身を隠す行動をとったが、車両が通過した後は速やかに出現し、再び同様の活動を開始した。道路から3m以上離れた箇所では、身を隠す行動はみられなかった。このような行動が5月から9月までの5回の調査において毎回観察された。また、8月および9月については、11時から15時の時間帯においても同様の行動が観察された。



写真1. 観察したヤンバルクイナ

9月の調査時においては、写真2に示したように、18時半から19時にかけて、道路に面するリュウキュウマツに昇って休息する行動が観察された。高さとして約5m程度の高さで静止し、翌日の日の出直後まで休息する行動が観察された。その後、日の出後に路上へ降り、路上横の空き地にて探餌や羽繕い行動が連続的に観察された。このような道路横の樹上での休息する行動は、9月の観察時のみ観察された。10月および11月の2回の観察時には、本個体は観察されなかった。また、この2回の調査時は、他の個体も観察されなかった。12月に行った調査において、本個体の路上周辺への出現を8時頃に確認したが、滞在時間も短く、約3分程度であった。

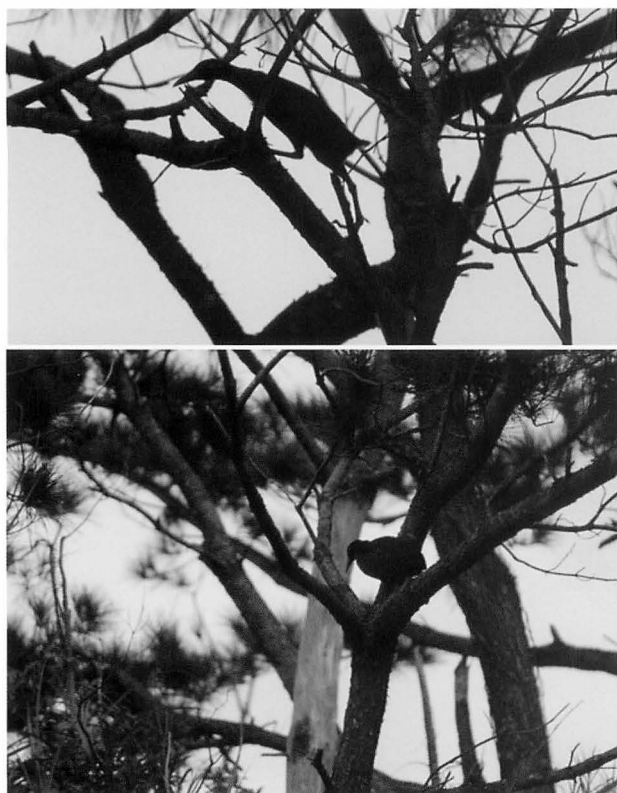


写真 2. 樹上のヤンバルクイナ

このように特異的な行動を示す個体であるが、路上周辺を主な行動圏とし、さらに道路横の樹上で休息するなどの行動を示すことは、道路などの人工物に対する警戒心が弱まりつつあることを示唆する事例として大変興味深い。調査を行った箇所付近の道路は県道ではあるものの、通勤や観光客などの車両の往来が断続的に認められる場所である。車両などに近い場合には身を隠す行動をとるものの、車両から3m以上に離れている場合には、車両等に応答した行動はみせずにいることなどから、本個体が車両等への警戒心が稀薄していることが考えられた。また、観察期間中に、路上横を歩いて通過するヒトがあったが、その場合には、速やかに草むらへ身を潜める行動が観察された。このことから、本個体はヒトへの警戒心は高いことが示唆された。しかし、本地域は観光客がヤンバルクイナを撮影する目的で歩行する機会も多く、付近には畜産農家もあり、そのような点で本個体がヒトに遭遇する機会は比較的多いことが考えられることから、今後、ヒトに対する警戒心も弱まる可能性がある。

今後、このような個体が増えることは、我々との接点が近づく可能性を示しており、このようにヒトとヤンバルクイナの生活圏が重複していくことは、新たな問題を生じさせる可

能性があることから、注視していく必要がある。

要約

本試験では道路周辺の定点調査において特異的な行動を示した個体の行動を分析した。5月から9月までは、比較的多くの時間、道路横の空き地にて採餌および毛繕い行動が連続的に観察された。また、9月には道路横のリウキュウマツの樹上で休息する行動が観察された。このように本個体は、比較的車両等が多く往来する道路付近を主な生活圏としている可能性が示された。今後、このような個体がどの程度いるのかなど、我々ヒトとヤンバルクイナ生活圏の重複などについて調査することは共存を考えていく上で重要であろう。

引用文献

- 1) 黒田長久, 斉藤静志, 石岡行雄, 杉森文夫, 尾崎清明, 百瀬 浩, 馬場孝雄, 池原貞夫, 崇原健二, 久貝勝盛, 原戸鉄二郎. 1992. ヤンバルクイナシンポジウム-研究・保護の現状と将来の展望-. 財団法人山階鳥類研究所.
- 2) 山階芳麿, 真野 徹. 1981. 沖縄島で発見されたクイナ類の1新種. 山階鳥類研究所研究報告. 13(3): 1-6.
- 3) 小原秀雄, 浦本昌紀, 太田英利, 松井正文編著. 2000年. 『動物世界遺産 レッド・データ・アニマルズ4 インド, インドシナ』. 講談社. 93. 176頁.
- 4) 『沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ)-動物編-』. 2005. 沖縄県文化環境部自然保護課編. 55-57頁.
- 5) 黒田長久監修 C.M. ペリンズ, A.L.A. ミドルトン編. 1986年. 『動物大百科7 鳥類I』. 平凡社. 184頁.
- 6) 黒田長久, 森岡弘之監修. 1989. 『世界の動物 分類と飼育10-II (ツル目)』. 東京動物園協会. 56-57. 161頁.
- 7) Taylor, Barry & Ber van Perlo. 1998. Rails: A Guide to the Rails, Crakes, Gallinules and Coots of the World, Pica Press, Sussex.
- 8) 尾崎清明, 馬場孝雄, 米田重玄, 広居忠量, 原戸鉄二郎, 渡久地豊, 金城道男. 2006. ヤンバルクイナの生息域と生息数の減少. 日本鳥学会2006年度大会講演要旨.
- 9) 尾崎清明, 2009. 日本最後の「新種」-ヤンバルクイナ(ツル目クイナ科) - (所蔵名品から 第19回) 山階鳥研NEWS, no. 226.
- 10) 黒田長久, 真野 徹, 尾崎清明. 1984. クイナ科の保護について-ヤンバルクイナの発見に因んで- 山階鳥類研究所50年の歩み: 36-57. 山階鳥類研究所.
- 11) 池長裕史. 1983. 日没時におけるヤンバルクイナの水場への出現とその際の若干の行動観察. Strix(2): 1-11.